

決算報告

一般会計歳入・歳出

令和2年度の決算は実質収支が15億3千万円の黒字となりました。歳入・歳出ともに昨年度より増加しました。増加した主な科目は、歳入では国庫支出金、市債、地方交付税および市税、歳出では総務費、公債費、民生費、商工費および教育費です。

【実質収支】

歳入歳出差引額から次の年に使うことが決定しているお金（繰越事業に充てる財源）を差し引いた額です。一年間の収支を表します。

歳入の内訳

科目		決算額	比率	内容
自主財源	市税	99億4,338万円	33%	市民税、固定資産税など みなさんから納めていただいたお金
	繰越金	19億7,610万円	7%	前年度からの余剰金
	その他	26億6,536万円	9%	基金を取り崩したお金など
依存財源	市債	23億367万円	8%	市が国や銀行などから借りたお金
	国庫・県支出金	87億3,982万円	29%	国や県からの補助金など
	地方交付税	23億3,369万円	8%	自治体の財政力の格差を解消するために 国から交付されたお金
	その他	17億5,758万円	6%	国からの譲与税や県税交付金など
合計		297億1,970万円		

歳出の内訳

科目	決算額	比率	内容
議会費	2億206万円	1%	議会を運営するために必要なお金
総務費	74億3,162万円	27%	庁舎管理や広報、交通対策などに必要なお金
民生費	68億5,848万円	24%	高齢者や児童などの福祉に必要なお金
衛生費	14億3,653万円	5%	健康診断やごみ処理などに必要なお金
農林水産業費	7億969万円	3%	農業などを盛んにするために必要なお金
商工費	4億7,982万円	2%	商工業などを盛んにするために必要なお金
土木費	23億5,461万円	8%	道路の建設や維持管理などに必要なお金
消防費	12億3,165万円	4%	消防署の運営委託や消防団の活動に必要なお金
教育費	19億2,375万円	7%	学校教育や社会教育などに必要なお金
公債費	28億7,082万円	10%	市の借金を返すために必要なお金
その他	25億3,077万円	9%	財政調整基金などへの積み立てに必要なお金
合計	280億2,980万円		

令和2年度の決算の概要と財政状況をお伝えします。

※四捨五入のため合計が合わない場合があります。

☎ 財政課 ☎ 86-7742

令和2年度決算の詳細については、ホームページをご覧ください。



いなべ市の
決算状況▶

市税収入額の推移

市税収入額は前年度より4億4千万円多い99億4千万円となりました。

市内の企業が設備投資を行い、固定資産税の償却資産分が3億5千万円増加したことが主な要因です。

単位(億円)

費目	H28	H29	H30	H31	R2
市民税(個人)	24.9	25.2	25.2	26.4	26.5
市民税(法人)	10.5	6.1	11.8	6.9	7.3
固定資産税	51.5	53.3	54.2	56.8	60.8
その他	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9
合計	91.7	89.3	95.9	95.0	99.4

基金(貯金)と市債(借金)の推移

基金(貯金)

一般会計の基金残高は115億3千万円となりました。基金のうち、財政調整基金は、財源不足を補うために10億9千万円を取り崩し、決算剰余金の半分や事業費精査による剰余金の一部にあたる16億7千万円を積み立てた結果、53億5千万円となりました。

市債(借金)

一般会計の市債残高は298億5千万円となりました。市債残高のうち、231億9千万円の償還費用は、国からの地方交付税で措置されます。

単位(億円)

年度	基金(貯金)	市債(借金)
H28	157.5	217.0
H29	138.9	237.3
H30	130.2	309.0
H31	111.7	303.0
R2	115.3	298.5

財政指標

財政健全化判断比率

自治体の財政状況が良好かどうかを、標準財政規模に占める割合で示す指標です。4つの指標があり、今のところいずれも危険な水準を大きく下回っており、健全な状況です。

指標	いなべ市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 一般会計の赤字の割合	赤字なし	12.85%～	20.00%～
連結実質赤字比率 すべての会計の赤字の割合	赤字なし	17.85%～	30.00%～
実質公債費比率 年間の借金返済額の割合	8.0%	25.0%～	35.0%～
将来負担比率 将来に見込まれる負債の割合	11.4%	350.0%～	—

令和2年度の決算について

令和2年度決算は、新型コロナウイルス感染症対策費として、国から多額の財源が交付されました。

市民に1人あたり10万円を給付する特別定額給付金事業は、46億円という大きな事業費でした。また、国庫補助金の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金5億円を活用して、マイナポイント活用促進プレミアムポイント付与事業や感染症拡大防止事業、アフターコロナに向けた施設整備事業などを行いました。

歳入では、市税収入が99億円と合併以来最大となりました。



上下水道決算報告

令和2年度の決算の概要と財政状況をお伝えします。

☎ 水道総務課 ☎ 72-2752

●給水人口……45,224人
(前年比357人減)

●給水原価……141.46円/㎡
(前年度150.20円)

●供給単価……145.70円/㎡
(前年度145.81円)

水道事業を運営するための財源と費用(税抜)

区分	決算額	比率
水道料金	7億9,119万円	76.2
市からの補助金・負担金	1億1,040万円	10.6
その他収入	1億3,726万円	13.2
収入合計	10億3,885万円	

区分	決算額	比率
水道施設の維持費	1億5,348万円	16.3
事務費	1億4,168万円	15.0
借入金の利子償還	5,251万円	5.6
その他支出	6,235万円	6.6
減価償却費・資産減耗費	5億3,309万円	56.5
支出合計	9億4,311万円	

収入合計－支出合計 = **9,574万円**

水道施設を整備するための財源と費用(税込)

区分	決算額	比率
市からの補助金	1億138万円	37.3
借入金	1億4,520万円	53.4
加入金	2,546万円	9.3
収入合計	2億7,204万円	

区分	決算額	比率
水道施設の新設・更新費	3億3,770万円	51.8
借入金の元金償還	3億1,453万円	48.2
支出合計	6億5,223万円	

収入合計－支出合計 = **－3億8,019万円**

マイナス分については、過年度分損益勘定留保資金等で補填しています。

●水洗化人口……42,765人
(前年比308人減)

●排水処理原価(公共)……249.04円/㎡
(前年度255.38円)

●使用料単価(公共)……112.63円/㎡
(前年度112.73円)

●排水処理原価(農集)……440.13円/㎡
(前年度504.38円)

●使用料単価(農集)……106.08円/㎡
(前年度106.51円)

下水道事業を運営するための財源と費用(税抜)

区分	決算額	比率
下水道使用料	5億1,215万円	28.0
市からの補助金	9億5,409万円	52.2
その他収入	3億6,100万円	19.8
収入合計	18億2,724万円	

区分	決算額	比率
下水道施設の維持費	4億3,367万円	27.7
事務費	8,346万円	5.3
借入金の利子償還	1億8,037万円	11.5
その他支出	2,624万円	1.7
減価償却費・資産減耗費	8億4,245万円	53.8
支出合計	15億6,619万円	

収入合計－支出合計 = **2億6,105万円**

下水道施設を整備するための財源と費用(税込)

区分	決算額	比率
市からの補助金	2億3,303万円	54.1
国からの補助金	5,301万円	12.3
借入金	1億1,180万円	26.0
受益者負担金	3,270万円	7.6
収入合計	4億3,054万円	

区分	決算額	比率
下水道施設の新設・更新費	2億5,609万円	22.0
借入金の元金償還	9億961万円	78.0
支出合計	11億6,570万円	

収入合計－支出合計 = **－7億3,516万円**

マイナス分については、過年度分損益勘定留保資金等で補填しています。